



いわいずみ 議会だより

Iwaizumi

2014
11.1
No.

169

発行 岩手県岩泉町議会

まちの笑顔 87

フランクだいすき♡
(小本保育園)

過去最高額を更新 25年度決算187億円を認定 4p

奨学資金の貸付額を増額決定 6p

町の考えを問う(7議員が一般質問) 8p

特集 視察研修レポート 17p

決算 の総額 187億円



9月定例会 の あらし

9月定例会は9月10日から19日までの10日間、わたり開かれました。一般質問には、7人の議員が登壇し、誘客、防災、林業施策などについて質問しました。条例改正と補正予算、平成25年度決算については、2つの特別委員会を設けて集中審査を行いました。その結果、国民健康保険特別会計の決算は、賛成多数で認定。そのほかの議案は、全会一致で原案のとおり可決・認定しました。

町税の収納率向上を評価



審査委員 佐々木 隆
決算審査 代表
議長 報告 代理
本報 代表

監査委員による決算審査は7月25日から8月22日まで行われました。本会議で報告を受けた決算審査意見書の内容を要約してお知らせします。

▼**歳入** 自主財源は、前年度に比較して増加しているが、依然として依存財源の比率が高い財政状況にある。

町税の5年連続の収入率向上は評価するが、収入未済額は依然として多額な状況になっているので、引き続き滞納防止、収入率向上に努められたい。

▼**歳出** 東日本大震災関連復興事業や経済再生に向けた緊急経済対策事業などにより大幅な増加となっている。人件費や公債費などの義務的経費は、前年度に比較して減少し、財政運営の健全性は保たれていると認められる。

▼**総括** 財政環境の厳しい状況のなか、健全財政を維持しつつ、各種事業を積極的に推進したことは評価するところである。

▼**今後の財政運営** 町民が期待する行政需要を的確に把握し、事務事業を厳選するとともに、財政規律と投資のバランスをはかりながら、暮らしやすい岩泉町の実現に向けて、より一層の努力を強く期待するものがある。

震災復興の促進を願い、元気いっぱいの踊りを披露する「いずみの里」の皆さん（震災復興夏まつり）





平成 26 年 4 月から入居が始まった
小本地区災害公営住宅

平成 25 年度

復興強化 過去最高

町教育委員 大川さんの再任に同意



おおかわ よしゆき
大川 義之さん

町教育委員会委員に、岩泉の大川義之さん（60）を再任することに同意しました。本年 9 月 19 日で大川さんの任期が満了となるため、再任されたものです。

任期は 9 月 20 日から 4 年間です。

大川財産区管理委員 7 人の選任に同意

大川財産区（※）管理委員に、次の 7 人を選任することに同意しました。

現在の管理委員が、本年 9 月 30 日で任期満了となるため、後任の委員を選任するものです。

大川財産区管理会は 7 人の委員で構成。大川財産区の財産などの管理や処分をする場合に内容を審議し、決定する機関です。

任期は 10 月 1 日から 4 年間です。

■選任された管理委員（敬称略）

氏名	年齢	行政区
前川 超	65	釜津田・権現
三上 良孝	70	釜津田・館沢口
佐藤 崇	62	大川・外山
川村寅三郎	76	大川・下町
青木 久継	67	浅内・川代
畠山 利勝	53	釜津田・館沢口
三上 朝雄	68	釜津田・外椀

決 算に基づく町財政の「健全化判断比率」と「資金不足比率」の報告がありました。

25 年度決算の「健全化判断比率」の状況は次の表のとおりですが、いずれも国の基準を下回っています。

また、「資金不足比率」については「資金不足なし」と報告されていますので、町財政は健全であると判断されます。

町の財政は「健全」と判断

●財政健全化法に基づく「健全化判断比率」

（単位：％）

比率名	25 年度	早期健全化基準
実質赤字比率	赤字なし	14.60
連結実質赤字比率	赤字なし	19.60
実質公債費比率	8.2	25.0
将来負担比率	将来負担なし	350.0

反対 町民の懐を温めるべき

林崎 竟次郎 議員

決算認定は、住民の暮らしを踏まえた予算であったかを考える必要がある。平成 25 年度に行った国保税の引き上げは、それに反するものである。国保財政調整基金が 2 億円を超えている中、税率の引き上げは理解できないと言っている。国保加入者もいる。

町民の懐を温めるべきであり、認定には反対である。

賛成 高齢化で診療費が上昇

坂本 昇 議員

国保税引き上げに対する町民の感情は理解できるものの、国保会計は安定運営が求められる。高齢化等により医療費が毎年上昇し、国保財政調整基金も 5 年連続で取り崩している。

税の引き上げをしても、県内における町民の負担額は、33 市町村中 29 番目に位置し、やむを得ないと判断でき、認定に賛成である。

討論 「平成 25 年度国民健康保険特別会計歳入歳出決算」

▼採決結果 反対 1 人（林崎竟次郎議員）、賛成 12 人で原案認定

（※）昭和 31 年の町村合併前に、大川村が条件を附して寄付を受けた釜津田区有林

復旧・復興事業に44億円

決算審査の特別委員会（畠山直人委員長）では、東日本大震災津波から2年が経過し、「本格復興年」と位置付けた過去最高の決算を慎重に審査しました。決算の状況を掲載するとともに、委員会の質疑の中からいくつかを要約してお伝えします。



待望の起工式で鉄入れを行う小本中学校の生徒。早期完成を望むとともに新校舎での躍進を誓います

平 平成25年度の復旧・復興事業では、災害公営住宅整備事業に7億940万円、小本小学校及び小本中学校移転復旧事業に3億4368万円、集団移転地等整備事業に2億2555万円等が使われました。また、地域情報通信基盤整備事業（※）に、21億5712万円が使われました。

雨量情報の全域周知は防災連携システムを活用

問 昨年7月に国境で集中豪雨があつた。雨量計が設置されていたので、数字がでている。町内の設置状況はどうか。

答 雨量計は、町の設置が12カ所、県が5カ所、アメダスが2カ所、計19カ所となっている。

問 このほかに、気象庁のレーダー観測が、5キロメッシュで空気中の水蒸気雨量の観測をしている。

答 川上側の雨量は川下側ではわかりにくいので、現在進めている防災連携システムでのぴーちゃんねつと、防災行政無線、防災メールにより、情報発信していきたい。

問 川上の降雨が川下にかかると、降雨から2、3時間で川上の雨量情報を川下の地域に

平成25年度各会計の決算額

会計名		歳入	歳出	歳出の前年度比
一般会計		167億2920万円	149億8866万円	6.2%
特別会計	国民健康保険 事業勘定	15億7317万円	15億6742万円	▲1.4%
	国民健康保険 診療施設勘定	3321万円	3051万円	0.1%
	後期高齢者医療	9930万円	9907万円	4.7%
	介護保険 事業勘定	14億 52万円	14億 21万円	1.8%
分会計	介護保険 サービス勘定	1197万円	1085万円	7.8%
	簡易水道	3億9729万円	3億6126万円	▲19.0%
	観光事業	1億6357万円	1億5736万円	38.5%
計	公共下水道事業	1億7411万円	1億6930万円	5.4%
	大川財産区	619万円	528万円	249.0%
合計		205億8854万円	187億8992万円	4.8%
24年度決算（参考）		186億 828万円	179億3612万円	—

過去5年間の歳出決算額

年度	歳出決算額	21年度比
21	124億4814万円	—
22	141億2750万円	13.5%
23	154億2470万円	23.9%
24	179億3612万円	44.1%
25	187億8992万円	50.9%

（※）町内全域の超高速ブロードバンド基盤を24年度から3カ年で整備する事業。併せて、IP告知端末（通称ぴーちゃんねつと）を各世帯に設置し、行政や防災などの幅広い情報の周知の迅速化をはかる

小中学校の適正配置は 11月までには方向性を



二升石小学校1・2年生の複式学級の様子

問 小中学校適正配置検討委員会の内容と結果を聞く。

答 小学校13本分校中12本分校に複式学級がある。このことから、昨年3月に検討委員会を設置した。当町出身の岩手大学准教授をはじめ、PTA、学校関係者、地域関係者が構成している。

11月には、ある程度の方針が検討委員会から示される予定である。その後、町としての適正配置計画を策定したい。

問 学校統合に伴う地域への説明についての優先順位を示せ。

答 国等が示す通学に関する新たな指針では、距離（※）だけでなく、通学時間の上限は30分程度という基準を加える方針である。

本町の児童生徒数からすると複式学級を組まざるを得ない状況であることから、小学校では欠学年を出さないこと、中学校では複式1学級のみを学校とする状況を回避したいと考えている。

温泉調査の内容と成果は 開発困難との厳しい結論

問 温泉探査地質調査の内容と成果は。

答 電磁探査と放射能探査の2種類で調査した。4カ所実施し、調査した中では乙茂地区が一番可能性があるという結果が出た。掘削深度は千メートル以上で、水温25度、湧出量毎分60リットル程度が予想されるが、1億2000万円程度の掘削費用が見込まれるほか、経年により湧出量が減少するため10年程度で再ボーリングしなければならぬ等、コスト面で大きな問題があった。

ので、開発は難しいという結論になった。

問 久慈市の山根温泉と安家地区は同じ石灰岩地帯だと思いが、安家地区の調査を行わなかった理由は。

答 安家地区と龍泉洞付近とは地質が似ていることから、龍泉洞のみの調査とした。

問 小川の湯沢鹿は候補地が上がらなかったのか。

答 断層がないところには温泉は出ないというところで、断層のない湯沢鹿は候補地に上がらなかった。

湧き水成分の分析は、斐綿地区を3カ所、宮本地区、中里地区の計5カ所で行った。中里地区の湧き水が温泉に該当するという結果が出たが1分間に6リットルという少量な



こびが良びせんした…25年度事業



日当たりが良い災害公営住宅
田中 道雄さん（小本）

小本地区災害公営住宅に入居して、6カ月たちました。日当たりが良く、玄関も広く助かっています。物干しの位置が高く、屋根がない等不便なところもあるので、要望を聞きながら改善して欲しいと思います。



ぴーちゃんねっとに感謝
佐々木 久子さん（門）

ぴーちゃんねっととは、通話料金を心配せずに会話ができて、1時間以上も話をする時もあります。

行政からの情報は早くて助かりますが、災害等の情報はもっと詳しく、数回繰り返して発信をお願いします。



快適生活道が舗装され
千葉 義人さん（中里）

新しい場所に公民館ができましたが、公民館へ通じる砂利道に不便を感じていました。そこで、生活道整備として申請したところ、舗装道路に改良されました。雪解けも早く、スイスイと車が走り、皆さんが喜んでいきます。

(※) 小学校が4キロメートル以内。中学校が6キロメートル以内



今年の夏に開館した新しい町立図書館を利用する高校生

条例補正予算審査の特別委員会（佐々木久任委員長）では、
 条例に関する6議案と5つの会計の補正予算を
 審査し、付託された議案すべてを可決と決定しました。
 ここでは、委員会の質疑の中から
 いくつかを要約してお伝えします。

9月補正予算の状況

会計名		補正額	補正後の予算額
一	一般会計	5億3737万円	126億8170万円
特別会計	国民健康保険（事業勘定）	3274万円	15億9004万円
	介護保険（事業勘定）	48万円	14億6438万円
	簡易水道	925万円	6億185万円
	観光事業	1681万円	1億9054万円

補正予算の主な内容

- ◇南大芦飲雑用水施設改修事業負担金 1399万円
 大牛内地区で使用している飲雑用水施設の老朽化に伴い、非常用発電機を更新します。
- ◇龍泉洞敷地舗装工事 1203万円
 園地内のトイレ周辺の砂利敷箇所を700平方メートル舗装します。
- ◇町道奥岩泉線トンネル点検調査委託料 1049万円
 冬期間凍結で通行困難な折壁地区のトンネルについて、高精度レーザー等により老朽化の状況を詳細に調査します。
- ◇ふるさと納税謝礼 826万円
 ふるさと納税者への特典を見直したことにより寄付者が増えたことから、謝礼を増額しました。（平成25年度の件数は、年間で33件。平成26年8月は、1カ月で365件）

奨学資金 貸付金の増額を決定

2つの奨学資金に関する条例を、医師と医師以外の奨学資金制度に整理し、貸付金額や返還期限等の改正を行いました。
 平成27年度貸付開始者から適用になります。
 なお、既に貸付決定を受けている人は、従前どおりです。

条例補正予算審査特別委員会

奨学資金 貸付額の引き上げ理由は 実習費等を考慮した金額

奨学資金貸付額（月額）

区分	改正後の額	改正前の額
医師	200,000円以内	150,000円以内
大学等	60,000円以内	35,000円
医療従事者	大学等の区分に統合	50,000円以内
高校等	20,000円以内	(自宅) 10,000円 (自宅外) 21,000円

問 大学等の奨学資金貸付月額は、3万5000円から6万円以内に引き上げられた。理由は。

答 2つの奨学資金制度を整理し、大学等に医療従事者（医師を除く。）を含むことになった。看護系学校は、実習費の負担があることから増額した。なお、借りる人の希望に応じて、6万円以内で貸し付けするものである。

問 全国では、就職できずに奨学資金の返還が出来ない事例があるようだが、本町はどうか。

答 本町も同様の事例があり、相談しながら返還を進めている。

問 医師の奨学生について聞く。医師免許取得後、町内の医療機関で勤務すれば、奨学資金の返済は免除されるのか。

答 借入期間と同じ期間、町長の指定する医療機関で勤務すれば、奨学資金の返済は免除されるのか。

る医療機関で勤務すれば、返済が免除される。

問 町長の指定する医療機関に勤務しない場合は、

かつた場合は、年7・1%の利息相当額を付して返還するようになる。

大牛内

水道配管の更新は 補助事業を照会中

問 大牛内地区の南大芦飲雑用水にかかる施設改修は、田野畑村3割、本町7割という負担で進めなければならないが、設備更新に難しい部分が多々ある。しかし、配管の耐用年数は、大幅に過ぎ、

漏水している。配管を更新する考えは。県の事業で整備した設備である。多額の費用を要するた

め、町単独では難しいことから、県に補助事業がないか照会中である。



産業常任委員会の所管事務調査（5月29日）で更新を要望した南大芦飲雑用水の非常用発電機は、9月補正予算で迅速に予算措置されました

ふるさと

納税特産品の充実をはかれ 町内の事業所の協力が必要



ふるさと納税を促進するため、季節特産品の活用が期待されます

問 寄付金額1万円の謝礼として、5000円相当の特産品を贈るが、100万円を寄付した場合はどうか。

あると思うが対応は。今年8月から選べる特産品を実施したいと考えている。マツタケは、検討中である。

答 10万円以上は5万円相当の特産品を贈ることを定めていることから、100万円の場合も5万円相当の特産品になる。

現在の特産品は、三セク（※2）が取り扱っている商品だが、今後は、岩泉町物産振攻会に協力を呼びかけ、特産品の種類を増やしたいと考えている。

問 ふるさと納税（※1）の謝礼の特産品の更新は、定期的に行っているか。また、今の時期はマツタケが非常に有効で

答 本町に足を運んでもらえるような企画を組み、宿泊券などの商品も取り入れていきたい。

問 宿泊券や自然散策案内券等の商品も取り入れるべきでは。

答 本町に足を運んでもらえるような企画を組み、宿泊券などの商品も取り入れていきたい。

（※1）自分が選んだ自治体に寄付すると、寄付金額に応じて所得税と住民税から一定額の控除を受けられる制度
（※2）第三セクターの略。国や地方公共団体等の公共部門（第一セクター）と民間部門（第二セクター）との共同出資で設立された事業主体

臨時会

第5回と第6回臨時会の主な内容をお知らせします。

提案された議案は、審査の結果、すべて全会一致で原案のとおり可決しました。

第5回

(7月9日開催)

農業委員に 上田さんを推薦



うえだ よしまさ
上田 吉政さん

この臨時会では、除雪ドーザ等の財産の取得に関する5議案と農業委員の推薦について可決しました。

農業委員が7月19日で任期満了となるため、町長からの推薦依頼を受けて、議会でも推薦する委員について審議しました。

審議の結果、乙茂の

第6回

(8月4日開催)

復興排水施設 工事契約を可決

上田吉政さん(72)を推薦することに決定しました。任期は、7月20日から3年間です。

この臨時会では、契

約に関する3議案と建物の貸し付けに関する専決処分1件の承認を審議しました。

■工事名

小本地区復興排水施設(調整池)整備工事

▽金額

2億304万円

▽請負者

小野新建設(株)

■工事名

小本地区集団移転地東工区造成工事

▽金額

4838万4000円

▽請負者

工藤建設(株)

■工事名

準用河川小本川河川災害復旧工事(25災)

277号)

▽金額

1億98万円

▽請負者

高德建設(株)

町の考えを問う

一般質問

一般質問とは、議員が町長などの執行機関に対し、事務の執行状況や将来の方針などについて、所信や疑問をたたすこと、あるいは報告や説明を求めることを言います。

この一般質問により、執行機関の政治姿勢を明らかにするとともに、政治責任を明確にさせます。

結果として「現行の政策変更」や「新規政策を採用」させるなどの効果があります。

内容を要約して登壇順(質問順)にお知らせします。

なお、質疑全文を記録した会議録は、12月下旬ころから町立図書館または役場各支所図書室で閲覧可能となる予定です。

7人の議員が発言

～質問内容～

- ① ジオパークを生かした誘客は
 - ② 龍泉洞旅行村にドックランを
- 八重樫龍介 9p

- ① 町有林の長期伐採計画を
 - ② 空き家条例を制定すべき
 - ③ 商店街に常設の美術館を
- 野館 泰喜 10p

- ① 奥岩泉線に新トンネルを
 - ② 安家地区の除雪体制の強化は
- 合砂 丈司 11p

- ① 新まちづくり計画を問う
 - ② 土砂災害特別警戒区域の防災対策を
- 坂本 昇 12p

- ① 環境整備で防災対策を
 - ② ぴーちゃんねっとアナウンサー雇用は
 - ③ 一点突破型での産業振興を
- 三田地久志 13p

- ① 健康づくりの町による誘客を
 - ② 旧校舎を利用した教育の場を
- 三田地和彦 14p

- ① 国保税の1万円軽減を
 - ② 町民バス料金全額補助の考えは
- 林崎竟次郎 15p



ジオパークを生かした誘客は

やえがし りゅうすけ
八重樫 龍介 議員

町内外にPRし拡大をはかる

伊達 町長

町の考えを問う

八重樫龍介議員 本町の活性化をはかる手立ての一つは、交流人口の拡大にある。そこで、三陸ジオパーク（※1）が日本ジオパークに認定されたことを千載一遇のチャンスと捉え、今後、どのように生かし、取り組む考えか。

伊達町長 三陸ジオパークの有効活用をはかるために、観光業者、地域振興協議会、学識経験者等19人の委員からなる「岩泉町三陸ジオパーク推進協議会」を平成26年8月に立ち上げた。研修会によりガイドのスキルアップをはかるとともに、パンフレットの作成等に取り組み、町内外にPRしていく。さらに、三陸ジオパークに、みちのく潮風トレイル（※2）を加えた新たな旅行商品の開発に向けて、旅行者やマスコミを対象に現地視察ツアーを実施する。



龍泉洞が「ジオポイント」と「恋人の聖地」に選ばれ、これからの交流人口の増加が期待されます

八重樫議員 交流人口の拡大をはかるには、龍泉洞周辺の環境整備が重要である。龍泉洞青少年旅行村は、ここ数年整備されていない。また、テニスコートは、3年間利用者がいない状況にある。そこで、この場所をドックラン（※3）として整備し、有効に活用すべきと思うがどうか。近年は、ペットブームでもあり、町内の愛犬家の情報交換の場や憩いの場にもなる。



3年間利用者がいないテニスコート。活用はどうか？

龍泉洞 旅行村にドックランを 総合的な整備の中で検討

客の中には、ペット連れの人も多数いることから、ドックランなどの施設は必要なものと考えているが、用地の確保等、難しい問題もある。龍泉洞周辺の総合的な整備を進める中で、今後、調査検討を行う。

（※1）科学的に貴重な地質遺産を複数含んだ自然の公園。範囲は、青森県八戸市から宮城県気仙沼市までの3県16市町村
（※2）環境省が整備する長距離自然歩道。範囲は、青森県八戸市から福島県相馬市までの太平洋沿岸地域
（※3）犬専用の広い運動場



町有林の長期伐採計画を

のだて やすき
野館 泰喜 議員

森林経営計画を促進する

伊達町長

野館泰喜議員 広い町土の93%が山林であるが、その大面積がおろそかにされていないか。林業の基本は木材を生産することにある。町管理の約6000町歩を年に50町歩ずつ伐採する計画を立てるべきではないか。それに



高性能機械の導入により、山林の有効活用が望まれます

よって、民間の「森林経営計画」を換起し、町と町民と関係企業が一体となって循環型社会の構築に向かうべきだ。更新伐（※1）の考え方で山を活性化し、迫られる雇用拡大に対応する制度の導入を急ぐべきである。長期的な展望と計画に着手すべき時と考えるが町長の見解を問う。**伊達町長** これまでも町単独の助成を行って

きたが、昭和55年をピークに木材価格が下落し、林業への関心が薄れてきている。今後は更新伐の計画を追加して広葉樹の木材生産を行っていく。小規模な私有林の集約化と森林経営計画は、岩泉町森林組合が高性能機械の導入を検討しているところであり、森林認証（※2）拡大事業と併せて、連携して進める。

雇用拡大については、林業作業士の研修支援として3年間月額9万円（※3）を助成する国の制度を活用し、林業事業主と連携しながら、新規林業就労者の拡大に取り組む。

空き家条例を制定すべき 国の動向を注視して対応

野館議員 少子高齢化が投げかけている問題の一つに空き家の増加がある。「空き家バンク」の創設と合わせ「岩泉町空き家条例」を制定すべきと思うがどうか。**町長** この秋の臨時国会に空き家対策に関する特別措置法案を提出する動きがある。これらの動向を注視しながら適切に対応して行く。

商店街に常設の美術館を 街かど美術館を検討する

野館議員 町内には、少人数だが絵画の専門家がいる。陶芸家や木工作家、アマチュア写真家も多い。これら芸術作品を展示する常設の美術館を空き店舗を**三上教育長** 「街かど美術館」の発想で、商店街振興、観光客誘致、空き店舗対策等の課題解決のため、検討していく。

（※1）樹木を伐採し、萌芽（ぼうが）更新や苗木植栽により森林の再生を目的とする施業
（※2）適正に管理された森林から算出した木材などに認証マークを付けることによって、持続可能な森林の利用と保護をはかる制度
（※3）年間月数の上限がある。1年目最大10カ月。2年目最大8カ月。3年目最大8カ月



奥岩泉線に新トンネルを

あいしゃ たいけし
合砂 丈司 議員

調査し国へ強く要望する

伊達 町長

町の考えを問う



冬季間漏水等で凍結する奥岩泉トンネル

安家地区の除雪体制の強化は 県と町の一体的除雪を協議中

合砂議員 今年の大雪で安家地区は、3日間通行不能となった路線があり、救急車が現場に着けない状況だった。早期に除雪を行うため、県道と町道を一括して除雪できる体制の整備が必要ではないか。

1台を増やして、岩泉管内の除雪体制を充実強化する予定と聞いている。

また、ロータリ除雪車のオペレーターは確保できているのか。

県道と町道の一体的除雪については、現在、県と具体的な協議を進めており、今シーズンまでには、県道と町道が入り組んでいる地域の一体的除雪が可能になる見込みである。

町長 除雪体制の整備強化は緊急の課題であることから、ロータリ除雪車2台、除雪ローダ4台を今年度新たに取得することとした。

なお、オペレーターは、大平地区に2人、川口地区に1人を確保できる見通しである。

合砂丈司議員 町道奥岩泉線は開通から45年が経過し、水漏れがひどく冬期間は路面が凍結し、事故も発生している。

安全を確保するため、新たなトンネルの掘削や改良整備が必要と考えるがどうか。

また、岩手県でも除雪体制の見直しを進め、岩泉土木センターに除雪ローダ1台、小型ロータリ除雪車1台、凍結防止剤散布車

大平地区に2人、川口地区に1人を確保できる見通しである。

また、大坂本地区の道路改良も必要である。

大坂本地区の未舗装区間については、怠りなく維持修繕をしながら、安全な通行を確保している。

また、岩手県でも除雪体制の見直しを進め、岩泉土木センターに除雪ローダ1台、小型ロータリ除雪車1台、凍結防止剤散布車



大雪に見舞われ除雪を待つ民家(安家地区)



新まちづくり計画を問う

さかもと のぼる
坂本 昇 議員

定住化対策が最重要課題

伊達 町長

坂本昇議員 新岩泉町
まちづくり総合計画
(※)・後期計画は、平成27年度から平成31年度までの計画で、今年度策定される。このことから、次の3点を聞く。

- ①重要課題である定住化の促進のために、人口推計、町民所得向上及び生活力向上をどのように見据えて策定にあたっているのか。
- ②本町は、岩手県内で

も人口減少率が高く、脳卒中死亡率も県内ワーストワンである。特別な対策が必要と思われるが、考えを寄せ。

- ③本計画の概要が出来るならば、住民との意見交換をすべきと思うかどうか。
- 伊達町長 ①人口推計及び町民所得推計については、現在委託している段階であり、示せる状況にない。後期計画では、定住化対策を

最重要課題として、推計値を上回ることを目指して各種施策を積極的に展開していく。

- ②食生活の改善を重点的に保健活動を実施しているが、普及や実践方法を研究しながら、ワーストワンからの脱却に向け鋭意取り組んでいく。
- ③町政懇談会を10月に開催予定である。

特別警戒区域の防災対策を避難行動計画策定に努める

土砂災害

坂本議員 本町は、土砂災害警戒区域が180カ所指定され、そのうち特別警戒区域は169カ所と相当数ある。土砂災害特別警戒区域の人家を特定した防災マップを作成し、防災意識を高めるべきではないか。



防災マップを見ながら安全対策を協議する対策本部員（町総合防災訓練）

町長 本町には、土砂災害危険箇所が1037カ所あり、調査実施済みは382カ所である。現在も県が調査を進めている。

また、岩泉小学校裏手の危険溪流「上町の沢2」に対する砂防ダムの建設工事が県事業で着手されることから、より一層のハード整備を進めるように国及び県に要望する。また、避難行動要支援者台帳へ危険箇所情報を追加するとともに、各地区自主防災協議会と連携し、地域での避難行動計画の策定に努める。

(※) 各分野、各地域に関わるさまざまな課題や目指す姿を記した「まちづくり」の最も基本になる計画



環境整備で防災対策を

三田地 久志 議員

地域と協力し推進する

伊達 町長



倒木が川をふさぎ危険な状態。環境整備が必要です

町の考えを問う

- ① 町内の河川は急しゅんな地形を流れ、立木・倒木等にせき止められるとその威力は相当なものになる。環境整備による防災対策を実施する考えはないか。
- ② 山の環境整備は、集中豪雨の防衛手段になると思うが、森林の環境整備をどのように取り組むのか。
- ③ 龍泉洞地区の民有林

を借り上げ散策道を整備し、福島県にある「花見山」のような憩いの場を作る考えはないか。

伊達町長 ①立木が太くなり増水時に災害を誘発する可能性がある。河川が見受けられる。地域実情に詳しい地域振興協議会等と協力し、伐採等により環境整備を行うことが防災対策に繋がると考えている。

② 私有林において、森林認証（※）拡大事業に取り組んでいる。また、森林経営計画の作成と合せて高性能林業機械の導入について支援を検討している。

③ 龍泉洞第3駐車場の上部の山林は、山裾は比較的なだらかで植生などを整備した場合は、散策道としての活用も不可能ではないと考えるが、費用等あらゆる面を考慮し慎重に検討する。

ピーちゃん
わつと
アナウンサー雇用は
スタジオ設置を検討

三田地議員 ①ピーちゃんねっと専用スタジオを作り、アナウンサー担当者を雇用する考えはないか。

② 龍泉洞FMをピーちゃんねっとで発信できないか。

町長 ①スタジオの設置と専属アナウンサーの配置を検討している。

② 新たな設備投資が必要であり、現時点での具現化は厳しいものとして認識している。

一点突破型での産業振興を6次産業化とブランド化で

三田地議員 過疎が進む地方が多い中、島根県海士町では、4カ年で88人の1・Uターン者の雇用を創出している。

町長 地域資源を活用した6次産業化とブランド化を進めていくことが、地域経済の発展をはかる上で必要であり、定住化の促進につながっていくと考えている。

本町でも、新たな産業の創出や第1次産業の再生計画による一点突破型の産業振興を進める考えはないか。

町民の皆さんと対話を重ねながら、積極果敢に取り組み。

(※) 適正に管理された森林から産出した木材などに認証マークを付けることによって、持続可能な森林の利用と保護をはかる制度



健康づくりの町による誘客を

三田地 和彦 議員
みたち かずひこ

実効ある展開方法を検討する

伊達 町長



健康増進のためにノルディックウォーキングをする皆さん

三田地和彦議員 本町は、昭和61年に「健康の町」を宣言し、現在

は、まめもり体操に取り組むなど健康づくりに力を入れている。ま

た、山・川・海の大自然とそれらの食材を満喫できる資源豊かな町である。

森県八戸市から福島県相馬市までのみちのく潮風トレイルの推進などがある。

これらを前面にPR

食については、四季

し、「酸素一番の町宣言」を行った本町に来て、「癒されながら健康づくりを」というテーマで誘客に取り組み考えはないか。

折々の本町の食材を提供する旬の小屋や小川地区での炭鉱ホルモンまつりなど新しい取り組みも行っている。健康と食を前面に出

伊達町長 これまで健康に関連した誘客は、早坂高原の森林セラピーロード（※）や青

した誘客は、先進事例も研究しながら、実効ある展開方法についてさらに検討していく。

旧校舎を利用した教育の場を幅広い教育活動の場等を検討



被災した校舎等の利活用は、今後の課題です（旧小本小学校前）

三田地議員 町の発展のために一番大切なのは、人材教育である。

このことから、被災

三上教育長 現在、利用されていない校舎は、小本小学校はじめ5校ある。

した学校施設や学校統合などで使用していない校舎を内陸等の学生（大学生・高校生及び小中学生）の夏休み等の臨海と林間学校の場として利用させる考えはないか。町内の学生も一緒に参加させて、交流による幅広い教育を実施すべきである。

旧校舎の利活用は、幅広い教育活動への提供を含めたコミュニティ施設、福祉施設、そして地域経済の活性化がはかれるような施設等が考えられる。地域の皆さんの意見を聞きながら、あらゆる角度から検討する。

（※）平成18年にNPO法人森林セラピーソサエティから認定を受けた癒し効果が科学的に検証された散策路



国保税の1万円軽減を

はやしざき きょうじろう
林 崎 竟次郎 議員

減額は適さないと判断

伊達 町長

町の考えを問う

林崎竟次郎議員 4月から消費税が8%になり、来年10月から10%への増税が予定されている。また、年金がさらに減額されようとしている。

伊達町長 質問の特別調整交付金は、東日本大震災により増加した医療費の給付に充てるための財政支援として交付されている。また、国保財政調整基金は、平成20年度末は、3億9379万円であったが、平成25年度末は2億776万円まで減り、国保税率の改正を行ったにも関わらず積み増しできなかった。さらに、今年度、平成25年度療養給付費負担



国保税は、1人当たり年平均約8000円増額の見込みで、平成25年度に引き上げになりました

林崎議員 高齢者の社会参加を促し福祉の向上をはかるとともに、町の商業や文化の活性化を支援するために、町民バスの料金を高齢者や障がい者、小・中・高校生に対して、全額補助すべきである。

町長 町民バスは、町内のバス事業者2社で9路線を運行している。町では、運行に伴う欠損金を補助しながら、公共交通の維持確保に努めている。

町長 料金の割引は、定期券、回数券、障がい者運賃割引等があるが、これらの制度でカバーできない交通弱者への具体的な支援について、検討を進めている。

町民バス 料金全額補助の考えは交通弱者対象に検討中

金などの精算として3453万円の返還を予定している。この財源は国保財政調整基金に頼らざるを得ない。よって、今、国保税を減額することは適当でない判断する。

そのほかの質問

- ▼被災者医療費一部負担金の免除継続について
- ▼林業への燃料費支援と廃菌床を利用した木質バイオマスボイラーについて
- ▼公契約条例の制定について

議会改革や広報編集

研修概要

議会改革調査特別委員会

視察先：紫波町・西和賀町・雫石町
 視察月日：7月25日、8月1日
 目的：議会基本条例の制定について

広報編集委員会

視察先：宮城県大和町・金ヶ崎町・(株)岩手日報社
 視察月日：7月29日・30日
 目的：議員主導の議会報作りについて

総務常任委員会

視察先：(株)ヒューマンライフ(旧大平小中学校)
 視察月日：8月5日
 目的：人材育成事業について

産業常任委員会

視察先：岩手アライ(株)・特殊バナ(株)岩手工場・
 (株)エフビー岩泉工場・町道メンズクメ線
 視察月日：7月23日
 目的：誘致企業の現状調査と町道の現地調査



雫石町議会で説明を受ける委員

議会改革調査特別委員会（佐々木久任委員長）では、議会基本条例（※）を制定した県内の議会を視察しました。日頃の議会活動を条文化している点が共通していました。

■紫波町の特徴

- ・ 通年議会制と反問権を定めている。
- ・ 予算決算常任委員会を設置し、機動的な審査を可能にしている。
- ・ 広聴広報常任委員会を設置し、分科会活動を行っている。

県内の先進地に学ぶ 議会基本条例

議会改革調査特別委員会（佐々木久任委員長）では、議会基本条例（※）を制定した県内の議会を視察しました。日頃の議会活動を条文化している点が共通していました。

■西和賀町の特徴

- ・ 県内で第1番目に議会基本条例を制定した。
- ・ 予算、決算定例会後に意見交換会を行い、検証している。
- ・ 政策研究会を設置し、政策提言している。
- ・ 議会で財政白書を発刊し、予算、決算に反映している。

■雫石町の特徴

- ・ 危機管理条項を策定し、安全性の向上をはかっている。
- ・ 議会検証会の開催や倫理規定の策定など、議員の資質向上に努めている。

・・・所感・・・

活発な議会活動の実情を学んだ。また、条例は、日頃の議会活動に重点をおいており、これからの岩泉町議会基本条例制定に向けて、大いに参考になりました。

優良議会報に学ぶ 議員主導の紙面作り



議会報作成のポイント等を研修しました(金ヶ崎町議会)

に位置し、確固たる地位にある町議会を視察しました。

議会報は、事務局職員の間わる割合が多い現状にあります。これは、普通の紙面を提供するため、4年ごとにメンバーが入り替わる議員が主導するよりも、事務局主導の方が、的確であるとの考えによるものです。

この視察研修の目的は、果たして議員主導で普遍性は確保できているかということになりました。

・・・所感・・・

両町とも開かれた議会を目指し、見事な責任分担と編集意識で継続性、普遍性を確保していました。

この視察を踏まえて、当委員会も議員主導へ踏み出すことを決めました。

(株)岩手日報社では、クリニックを受けながら「プロの目」から見た貴重な紙面構成を学びました。

議会広報編集委員会（合砂丈司委員長）では、全国でも常に上位

(※) 地方分権の進展に伴い、議会の責任が大きくなった現実を見据え、地方議会運営の基本原則を定めた条例

特集

視察研修レポート 先進地に学ぶ

若者の力を実感した 人材育成事業

町内での起業者や経営者を育成する目的で平成24年度から3年間実施している人材育成事業について、視察しました。

本事業は、緊急雇用創設事業を財源に総額約1億7000万円をかけて行っているものです。委託先は盛岡市の(株)ヒューマンライフで、研修拠点は旧大平小中学校です。

本年度は最終年度であり、8人の雇用者は、三セク等で通年OJT(※1)を行い、さまざまな職場を体験し、地域産業、まちづくりをリードする人材となるよう励んでいます。当日は、今まで研修をしてきたことについて、発表する日でした。

・・・所感・・・

三セクの現状や今後の課題、そして自分の夢と希望や岩泉町への想いが発表され、来春4月に巣立つ若者たちに力強さと期待を感じる有意義な視察となりました。

今後も第1次産業従事者や後継者、ものづくり職人等の育成に力を注ぐ事業を行う必要があると感じました。



三セクで働いて感じた改善点等を発表する研修生

課題共有と改善により 着実に発展する誘致企業

町内の誘致企業3社を訪問し、各社の現状調査と町道メンスクメ線の現地調査を実施しました。

■岩手アライ(株)

昭和60年3月の創業以来、平成22年田野畑工場開始、24年金型設備の増設を行い、海外7拠点を含むアライグループの中心工場に進化している。生産品は、オイルシールや樹脂部品等で、従業員数は232人。うち町内が113人。

■特殊バネ(株)岩手工場

平成14年1月に猿沢に立地し、スプリングやピアノ線等約500種類のバネを製造している。納品は岩手アライほか100社にも及び、従業員数は19人。うち18人が町内。

■(株)エフピー岩泉工場

平成20年に立地し、7人の体制で携帯電話、パソコンに使用するコネクタを製造。さまざまな地域貢献活動を展開。従業員数は



社員から説明を受ける委員(特殊バネ岩手工場)

■町道メンスクメ線

平成19年の着手以来改良舗装が進み、本年度は峠部分の施工予定。全線6kmの完了は平成28年度の予定。総事業費9億円の見込み。

・・・所感・・・

誘致企業3社とも企業理念のもとに、PDCAサイクル(※2)やQC活動(※3)に取り組み、問題や課題を常に意識することで業務の改善をはかり、業績を伸ばしていることに感銘しました。

また、グローバルな視点を持つように、海外拠点等への派遣事業を行っていることは、人材育成という観点で頼もしいと感じたところです。

(※1) 企業内で行われる企業内教育・教育訓練手法
(※2) Plan(計画)→Do(実行)→Check(確認)→Action(改善)の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善すること
(※3) 品質管理に関わる活動

町民の皆さんとの意見交換会

議員と語る会

を開催します

議会活動の報告と町民の皆さんとの意見交換を行います。

ご近所お誘い合わせの上ご参加ください。

時間は、各会場とも午後7時～午後8時30分までの予定です。

月 日	地区名	会 場
11月14日（金）	岩泉	二升石多目的集会施設
11月17日（月）	有芸	栃の木・皆の川ふれあいセンター
11月18日（火）	大川	浅内多目的集会施設
11月19日（水）	小本	大牛内公民館
11月20日（木）	小川	褒綿老人憩いの家
11月21日（金）	安家	大平保健福祉館

皆さんからの **請願・陳情**

9月定例会に提出された請願は3件でした。

常任委員会に審査を付託した結果、2件を採択、1件を継続審査と決定しました。

なお、陳情書3件と要望書1件は、議会運営委員会で協議し、議員と町当局へ資料配付しました。

請願件名（付託委員会）	請願人	紹介議員	審査の結果	本会議での採決
政府による緊急の過剰米処理を求める請願（産業）	農民運動 岩手県連合会 会長 久保田彰孝	林崎竟次郎	採択	採択に全員賛成。国の関係機関に意見書を提出。
「被災児童生徒就学支援等臨時特例交付金」継続に向けた、国への働きかけの要請を求める請願について（総務）	岩手県教職員組合 下閉伊支部 支部長 坂下正典	野館泰喜	採択	

ひとまひとインタビュー

9月定例会の傍聴者数はのべ20人でした。傍聴された方の中から、安家の立白幸一さんに傍聴した感想などをインタビューしました。



たちうす こういち
立白 幸一さん
(安家・78歳)

過疎化対策を



旧大平小中学校で行われる人材育成事業は、今年度で終了します。過疎化対策への利活用が期待されます

―傍聴のきっかけは。
立白 知人に誘われて。初めての傍聴なので、興味もありました。

―傍聴された感想はどうでしたか。
立白 思ったより、静かで、スムーズに議事が進む感じでした。

―議員に対する要望がありますか。
立白 質問の内容にはもつとメリハリを付けて、自分の考えや、意見を熱く語るぐらいの迫力があって、良いと思いました。

―議会や町政に対する要望などはありますか。
立白 現在は特に心配事はありません。

しかし、近い将来、長男が定年退職をして、故郷に帰って来る予定です。その時、大平地区の過疎がどのくらい進んでいるか気がかりです。早急な過疎化対策を要望します。

議会を傍聴しませんか？ 次の定例会は、12月3日(水) 開会予定です



定例会は年4回、臨時会は必要に応じて開かれるよ。



議会は年に何回開かれるの？



名前と連絡先を書くだけだよ。



傍聴するためのにどんな手続きが必要？



議場は、役場の表玄関側より平和の礎の前を通った所にある建物だよ。青い扉が傍聴席の入り口になるよ。



議会の様子を見たい時は、どこに行けばいいの？

■お問い合わせ

岩泉町議会事務局
電話 22-2111 (内線252)
ぴーちゃんねっと 00-0252



会事務局へ問い合わせるといいよ。

定例会の日程は、「ぴーちゃんねっと」や町のホームページでお知らせしているよ。12月定例会の審議日程の予定は次とおりだけれど、変更される場合があるから、詳しいことは議



議会の日程を 知る方法は？



どこにいるのかな

いわいすみ再発見

ある日のMさんから電話。「今、鳥こが居んだども、忙しいのおろ？フクロウだごったがあ…。」

日中にフクロウ。こりや珍しいと思い、カメラを手に二升石小学校近くの大木へ。Mさん「あれ。あそこに見えっぺ。」

小生「どいざ。」
Mさん「木の上の枝が分かれるあたりさ。」

小生「んー？あつ、居だ居だあく、ほんとだ。」
Mさん「居だべえー。ずっとあそこさ居んがー。」

確かにじつとして動かない。何度もシャッターを切ることができました。Mさんに感謝。幸福な日になりました。

やえがしてつあき
八重樫定津彰(岩泉 53歳)

岩泉写真同好会の皆さんが撮影した
本町の風景を紹介するコーナーです。

私・の・好・き・な・ア・ン・グ・ル・㊦

表紙によせて

1歳で東日本大震災津波を体験した子どもが、義援金で整備した人気のブランコで遊んでいました。隣では、復興支援専門員がブランコ遊びをサポート。2人の復興支援専門員と園児の楽しそうな姿が印象的でした。



編集後記

平成25年度の決算が認定されました。一般会計総額約149億円です。
平常の年間予算に、未曾有の東日本大震災復興にかかる事業費がかさみました。仮設住宅住まいをされている皆さんへ配慮した事業や用地取得など町当局の目に見えない努力と気配りを感じた決算でした。
特典の見直しにより、ふるさと納税者が急増。感謝です。
(編集委員 坂本昇)

議会広報編集委員会

議長	加藤久民
委員長	合砂丈司
副委員長	三田地久志
委員	八重樫龍介
	林崎 竟次郎
	野館 泰喜
	坂本 昇



古紙のリサイクルに取り組むオフィス町内会と、森林の再生に取り組む岩手県岩泉町との連携により実現した「森の町内会一問伐に寄与した紙」を使用しています。